



荊芥連翹湯 (けいがいれんぎょうとう)

【処方コンセプト】皮膚・粘膜が過敏な方に。

熱によるもので、落ち着きがなく、ちくのう症(副鼻腔炎)、鼻炎などの慢性炎症やその体質改善に使う。また、ストレスを受けると、お肌の新陳代謝が悪くなり、大きく黒ずんだニキビや吹き出物ができやすい人にもよい。

◆荊芥連翹湯は「漢方一貫堂医学」の森道伯の経験方で、解毒証体質に使用する処方である。解毒証体質とは、結核にかかりやすい体質と解釈されているが、現代でいうアレルギー体質に類似しており、花粉やハウスダストなどの外界からの刺激に反応しやすく、炎症を起こしやすい体質のことをいう。本方はこの体質を改善する。

◆皮膚や粘膜が過敏なために、慢性鼻炎やちくのう症(副鼻腔炎)、中耳炎、あるいはニキビなど、呼吸器系や皮膚に症状が出やすい体質を目標にする。また、解毒証の方は、神経も敏感でイライラして落ち着きがなく、皮膚の新陳代謝が悪く皮膚がかさついたり、炎症を繰り返すので、皮膚が浅黒くなるなどの特徴もある。



症状を改善する。

◆一貫堂の解毒証には、柴胡清肝湯、荊芥連翹湯、竜胆瀉肝湯の3つの処方が用意されている。それぞれの使い分けは、一般に下記のように部位別、年齢別に分類されることが多いが、証さえ取り違えることがなければ、特に固執することもない。

| 部位別 | 顔面部 | 胴体部 | ヘソより下 |
|-----|-------|-------|-------|
| | 荊芥連翹湯 | 柴胡清肝湯 | 竜胆瀉肝湯 |

| 年齢別 | 幼少期 | 青年期 | 成人期 |
|-----|-------|-------|-------|
| | 柴胡清肝湯 | 荊芥連翹湯 | 竜胆瀉肝湯 |

◆臨床ではちくのう症(副鼻腔炎)、アレルギー性鼻炎などの慢性鼻炎、気管支ぜんそく、中耳炎、扁桃炎、リンパ腺炎、湿疹、ニキビ、アトピー性皮膚炎、神経症などに応用されている。

【処方構成】17味

本方は解毒を中心とした処方構成で、温清飲（四物湯＋黄連解毒湯）がベースとなっている。黄連解毒湯で体内の熱毒を鎮め、四物湯で補血し、血熱と血虚を改善する。解表薬である防風（ボウフウ）・荊芥（ケイガイ）・薄荷（ハッカ）・白芷（ビャクシ）はカユミを抑え、特に皮膚症状の改善に効果がある。また、桔梗（キキョウ）と枳実（キジツ）には排膿作用があり、薄荷（ハッカ）と白芷で鼻の通りをよくする。理気薬である柴胡（サイコ）と枳実（キジツ）は気の巡りをよくし、柴胡と桔梗により諸薬の効能を体の上部に引き上げて

(黄連解毒湯)
清熱解毒

オウレン
オウバク
オウゴン
サンシシ

ジオウ
トウキ
シャクヤク
センキュウ

(四物湯)
補血行血

ケイガイ
ボウフウ
ビャクシ

辛温解表

サイコ
ハツカ
レンギョウ

辛涼解表

キジツ
キキョウ
カンゾウ

排膿解毒

| | 解表 | | | 清熱 | | | | | | | 驅瘀血 | | | | 理気 | | 利水 | | | その他 | | | 配合生薬数 | | | | | | | | | |
|-------|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|-------|----|----|----|-----|----|----|-----|--|----|
| | 防風 | 荊芥 | 白芷 | 柴胡 | 薄荷 | 牛蒡子 | 蝉退 | 黄連 | 黄柏 | 黄芩 | 山梔子 | 連翹 | 石膏 | 竜胆 | 知母 | 苦参 | 当帰 | 芍薬 | 地黄 | 川芎 | 桔梗 | 枳実 | | 蒼朮 | 沢瀉 | 木通 | 車前子 | 甘草 | 胡麻 | 括楼根 | | |
| 荊芥連翹湯 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | 17 |
| 温清飲 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | 8 |
| 竜胆瀉肝湯 | | | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | 16 |
| 消風散 | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | 13 |
| 柴胡清肝湯 | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | | 15 |

| 処方名 | 類方鑑別 |
|-------|---|
| 荊芥連翹湯 | 皮膚が浅黒くて筋肉質で、温清飲に類似するが、さらに痒み強い。頭部や顔に症状が出やすい。 |
| 温清飲 | 四物湯と黄連解毒湯の合方。慢性炎症に。 |
| 竜胆瀉肝湯 | 主に下半身の炎症を中心に使う。尿の色が濃い、陰部癢痒感に。 |
| 消風散 | 分泌物が多くベタベタしたり、熱をもって赤くなったり、全身に広がり、カユミが強い。 |
| 柴胡清肝湯 | 幼少期のアレルギー体質の改善に。熱をもった赤黒い湿疹が慢性的に胴体に見える。 |